

伊調馨が金メダル



女子63キロ級で金メダルを獲得し、ガッツポーズする伊調馨＝アノリオシア・ホール（共同）

ライバル研究の成果出す

強い強い妹が女王になった。レスリングの女子63キロ級で伊調姉妹の妹、馨が大きな夢を達成した。器用な選手だが、63キロ級の体を保つために苦労する。外国の食事が苦手なため、海外遠征には日本食をスーツケースに詰め込んで出掛け、とにかく食べる。パワーの源は豊富な食事の量にある。

1次リーグ2戦目で、逆転で勝ったことが勢いを生んだ。決勝のマクマソン(米国)は昨年の世界選手権決勝で下している相手。金メダルの懸かった大一番では、研究の成果を出した。

ライバルの研究をするのは、あまり好きではないが、マクマソンの試合はビデオで繰り返し見た。今年1月の五輪テスト大会を視察した際には、マクマソンの試合を観戦し

「世界選手権と変わっていない」と自信のコメントを残している。姉の千春と同じように、五輪のために階級を変更した。一昨年の釜山アジア大会前だ。59キロ級にこだわりを持っていったが、中京女大の栄監督の「63キロ級に上げたら五輪に出られるかもしれない」という勧めを受け入れた。アジア大会は2位だったが、世界への道はここから本格的に始まった。

2001年のジャパンクイーンズカップ。愛知・中京女大付高2年の馨は、当時世界チャンピオン・山本聖子を破る番狂わせで、一躍脚光を集めた。それから3年がたち、世界チャンピオンとして臨んだ初めての五輪。重圧に押しつぶされることがなく頂点に駆け上がった。(共同＝榎本一生)